

いのちとくらしをまもる
防 災 減 災

令和 7 年 12 月 23 日
気 象 庁

IPCC シンポジウム「直面する気候変動に対処するための 様々な道筋を考える」の開催について

気象庁は、環境省、文部科学省、経済産業省、農林水産省、林野庁及び国土交通省と共に IPCC シンポジウム「直面する気候変動に対処するための様々な道筋を考える」を令和 8 年 1 月 30 日（金）に開催します。

■ 概要

気候変動の影響が生じ始めている中、適応策や緩和策は、日常生活や地域経済に直結しています。本シンポジウムでは、気候変動に関する政府間パネル（IPCC）や国内の気候変動影響の評価、適応・緩和の実践例を通して、次世代の参加者が今後自ら実践できる取組や自分が将来進む道筋などを考えるきっかけとなることを目指します。

- (1) 日 時：令和 8 年 1 月 30 日（金）14 時 30 分～17 時 30 分（14 時開場）
- (2) 開催方法：対面方式及びオンライン方式の併用（いずれも参加費無料）
- (3) 場 所：東京国際フォーラム ホール D 7
東京都千代田区丸の内 3 丁目 5 番 1 号
- (4) 主 催：環境省、文部科学省、経済産業省、気象庁
- (5) 共 催：農林水産省、林野庁、国土交通省
- (6) 後 援：地球ウォッチャーズー気象友の会ー
- (7) 参加方法：参加には事前申込が必要です。オンライン参加には人数制限はありませんが、対面参加の場合は先着順で、定員（200 名）になり次第締め切らせて頂きますので予めご了承ください。
参加を希望される方は、以下の参加申込フォームに必要事項をご記入の上、お申込みください。報道機関の方も同様にお申込みください。
参加申込フォーム
<https://www.gef.or.jp/news/event/250130ipccsympo/>

■ プログラム（日英同時通訳あり）

※変更となる場合がございます。最新情報は下記ウェブサイトに記載しますので、ご参照ください。

<https://www.gef.or.jp/news/event/250130ipccsympo/>

1. 開会挨拶

環境副大臣 青山 繁晴

2. 基調講演（英語）

- (1) Ladislaus Chang'a (IPCC AR7 副議長、タンザニア気象庁 長官代理)
「IPCCと気候変動における科学の役割」
- (2) Bart van den Hurk (IPCC AR7 WG2 共同議長、アムステルダム自由大学教授)
「(仮) グローバルな適応対策」
- (3) Joy Jacqueline Pereira (IPCC WG3 共同議長、マレーシア国民大学教授)
「(仮) グローバルな緩和対策」

3. 講演

- (1) 井田 寛子 気象キャスター・ネットワーク 理事長
「(仮) 日本の気候変動 2025について」
- (2) 肱岡 靖明 国立環境研究所 気候変動適応センター センター長
「(仮) 最新の気候変動影響評価報告書について」
- (3) 黒田 康平 株式会社イミュー 代表取締役
「(仮) 地域に根差した適応実践例」
- (4) 志知 和明 大阪府 環境農林水産部 環境管理室環境保全課 課長補佐
「(仮) 地域に根差した緩和実践例」
- (5) Climate Youth Japan
「(仮) これまで取り組んできたこと・課題」

4. ディスカッション：次世代の参加者が今後自ら実践できる取組や自分が将来進む道筋などについて

5. 閉会

問合せ先 大気海洋部 気象リスク対策課 気候変動対策推進室 長澤
電話 03-6758-3900 (4109)